

長野県千曲川沿いの保育施設の被害状況（2019年10月27日現在）

長野県は千曲川の決壊や氾濫により、4園の保育施設に大きな影響が確認された。特に被害が大きかったのが千曲市にある杭瀬下（くいせけ）保育園と雨宮（あめのみや）保育園で床上浸水となり自園での保育の再開が困難な状態になっている（ともに公立園）。杭瀬下保育園の園児は稲荷山保育園と屋代保育園で分散保育を行い、雨宮保育園の園児はあんず保育園で保育を行っている。

次に長野市の保育園では長沼保育園（公立）と豊野みなみ保育園（私立）が床上浸水になっている。こちらの2園は千曲川の堤防が決壊した穂保地区の周辺にある園である。2019年10月18日（金）に現地を視察した時の様子である。

長沼保育園の周辺の道路やリンゴ畑は壊滅的な状況であり、泥が湿った状態で非常に重く、復旧の作業もほぼ手つかずの状態だった。その日はボランティアの受け入れが始まった日であり、3名の方が保育園の泥かきの作業を行っていた。周辺にはリンゴ畑が園舎の目の前にあるなど、非常に自然豊かで恵まれた環境であることが想像できた。左の写真は周



辺のリンゴ畑であり、右の写真は保育園の脇を走っている道路である。フェンスが捻じ曲がっている様子から被害は甚大さやただ浸水しただけではなく、流れも速かったことを物語っている。周辺の状況や園舎の様子からは1階建ての園舎の真ん中または天井付近まで水が上がったことが確認できる。

この地点から10数分程車を走らせると周辺の店舗なども再開されており、局所的に非常に甚大な被害を受けていることが伺えた。自園で保育をうけることができない子どもたちの事や自園がこのような状況であることを子どもたちがどう受け止めて行くのかということ想像し胸が苦しくなった。

また、報道でも取り上げられた新幹線の車両基地だが、その近くにあるのが豊野みなみ保育園である。こちらは1F平屋建ての天井まで水がきたということだった。在園児は近隣の雷鳥保育園やおはなし屋保育園・姉妹園のすずらん保育園で保育を行っている。分散保育を行っていることから、保護者の送迎が容易ではないことが保育者の話から伺うこと

ができた。子どもたちの迎えは祖父母が行う家庭が多い。自宅から離れたところに子どもを迎えに行く祖父母が多く、保護者も大変だとおっしゃっていた。子どもだけでなく、その家族もまた日常生活を大きく変えて生活を継続しなければならない大変さがある。被害の甚大さとどこに困り感があり、今何が必要なのかが分からない災害後の対応の困難さに胸を痛めた。改めて自分が暮らしている地域に保育園があり、通いやすいや預けやすいといった日常の尊さを見つめる機会にもなった。また、台風の前はこの園庭で運動会が行われたという話やお祭りで担いだ手作りのおみこしも泥だらけの状態であり、子どもには見せられないと語る保育者の思いに、子どもたちがどのような思いで今保育を受けているのか。それを思うと一日でも早く豊野みなみ保育園として園が再開されることを願うばかりである。下の写真は豊野みなみ保育園周辺の状況である。新幹線の車両基地は散歩で行くコースだったというお話も伺った。浸水区域の中でも新幹線の車両基地のある地域が、特に水深が深かったと言われている。豊野みなみ保育園がその周辺に位置していることからすると13日の朝の状況の大変さを想像することができる。



視察当初は子どもの衣服がなく、園でも衣類を提供できる家庭に呼びかけて衣服が足りない家庭に配布するかどうかを検討したようだった。しかし、それも手が回らないということで話がなくなったようである。こちらの園からも10分程度車を走らせれば、日常を取り戻している地域に出る。視察当日は園舎の泥かきをしている状況であり、保護者の方も一名一緒に泥かきを行っていた。私もこの園舎に戻れるのだろうか、戻れないとしたらどうするのだろうかという複雑な思いを抱きながら泥かきをお手伝いさせて貰った。子どもたちの今の思いや保護者の思い、保育者の今の思いに耳を傾けながら思いを寄せ、支援に繋げていきたい。

2019・10・27

文責：千葉直紀（信州保問研）